



新年あけましておめでとうございます

日頃のご愛顧を厚く御礼申し上げますとともに、
今年一年が最良の年でありますよう、心よりお祈りいたします



縁起物の由来

招き猫



縁起物と聞いて、多くの人が真っ先に思い浮かべるであろう招き猫。歴史をひもとくと、ご利益のルーツは平安時代までさかのぼります。弘法大師・空海が朝廷の命を受け、讃岐の国(現在の香川県)の灌漑工事に向かったものの、資金難と人手不足で工事が難航していました。空海は近くの神社にこもり、工事の成就を祈願すると、山頂から一匹の猫が現れたといいます。猫は、両方の前足を頭より高く上げ、しきりに人を招く仕草を繰り返したそうです。この出来事の後、朝廷から多額の資金が追加され、人夫の数も揃い、工事はあっという間に完成しましたとさ。以来、猫は幸福を招く動物として広まり、「招き猫」が縁起物になったというわけです。右手を上げていると金運を招き、左手を上げていると人(客)を招く意味があり、さらに、右と左の違いだけでなく、手の高さにも意味があり、高ければ高いほど遠くの福を呼び寄せるといわれています。

掃除道具に洒落を加えて縁起物になった熊手



オフィスはもちろん、飲食店で見かけることが多い熊手も、縁起物の一つ。購入するのは酉の市で、というのが当たり前になっていますが、開催当初は収穫祭としての位置づけでした。つまり、農機具や農作物、古着などが露店で売られているそばに、掃除道具として熊手が売られていたのです。それが、商売人が洒落で「運をかきこむ」「金銀をかき集める」道具として買い求めたところ、いつのまにか縁起物とみなされるようになったというわけです。そして次第に実用性よりも装飾重視となり、宝船に乗った七福神、大判小判、松竹梅などで飾られ、現在の縁起物としての熊手に変化していったのです。熊手を飾る場所は、まず「玄関の少し高い位置に、入口に向けて飾る」。室内の場合も少し高いところで、熊手の正面を東、西、南のどれかに向けて飾るのが基本。また、処分する時は、寺社で授かったものは、次の年の酉の市に持っていき、「熊手納め所」へ。そこでまた新しい熊手を購入するのが習わしとなっています。

世界中で縁起物とされているフクロウ

カエルと同様、フクロウも世界中で縁起の良い生き物とされています。昔から、フクロウは首がぐるっと回ることから、(借金を背負って)首が回らなくなることがない=商売繁盛。暗闇でも目が見えることから「目が利く」「先が明るい」縁起物とされてきました。



さまざまな当て字がされるのもフクロウの特徴。不苦労は「苦労知らず」、中華料理店でよく見かける「福龍」には「福をまとめる」という意味があるとか。「福来」は文字通り「福が来る」、「福老」は「幸福に歳をとる」という意味になります。フクロウの置き物の置き場所として最もポピュラーなのは、カエルと同じくエントランスホールか玄関。フクロウは「邪」と「福」を選別し、良い気だけを招き入れるといわれ、入口に置くことで運気を呼び込むと思えば縁起をかつぐのです。また、自宅ならリビングルームに、会社ならミーティングスペースや会議室など、人が多く集まる場所に置くのがいいとされています。



カエルの置物は、顔を内側に向けるようにして置く

猫以外にも縁起物のモチーフとなる生き物は多く、カエルもその一つ。日本では「お金がカエル、福がカエル、無事にカエル」などの語呂合わせがあり、また「カエル=変える」で、状況をよい方向に変えてくれるといわれています。前にしかびよんと飛ばないため、仕事運がアップする象徴としても好まれています。雨が降る前に鳴くことから、雨を呼ぶ=豊作をもたらすともいわれてきました。カエルの置き物を置く場所として、最適なのは建物の入口、エントランスホールや玄関がオススメです。置き物の向きに注意が必要で、カエルの顔を外に向けてお金が出ていくとか、顔を室内に向けて置くようにしてください。

定休日のご案内

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

新築・増改築は
もちろん、キッチンや
トイレの改修など
ちょっとした事でも
お気軽に
ご相談下さい!!

※丸の付いている日が定休日です。